

『滋賀の未来のカタチ 県民対話』－対話型アンケート－ 実施結果について

1. 目的

討論型世論調査の手法を参考に、県政世論調査で取り上げるテーマについて、情報提供と対話を行う「対話型アンケート」を試行し、回答がどのように変化するかを分析し、広聴のあり方を検討するとともに、参考資料の閲読や対話を通じ、テーマ施策に対する意識がどのように変化するかを検証する。

また、対話の過程で得られた県民の声を今後の県政運営の参考とする。

2. 実施日

平成 24 年 7 月 15 日(日) 10 時 00 分～16 時 30 分

3. 実施場所

ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター(大津市におの浜 1 丁目 1 番 20 号)

4. 参加者

県政モニター 73 名(県政モニター 359 名のうち参加希望者)

5. 対話テーマ

「関西広域連合の取組と県の将来のあり方」

6. 当日プログラム

- ① アンケート(通算 2 回目。資料提供した結果の意識変化をみる)
- ② 第 1 回目グループ対話
- ③ 第 1 回目全体質問会(専門家との質疑応答)
- ④ 第 2 回目グループ対話
- ⑤ 第 2 回目全体質問会(専門家との質疑応答)
- ⑥ アンケート(通算 3 回目。対話と質疑応答した結果の意識変化をみる)

※当日までの流れ

- (1) 第 1 回目アンケート(5 月下旬)

既存の県政モニター全員にテーマについてアンケートを実施し、調査回答者には対話参加希望の有無も回答してもらう。

- (2) 対話参加者への資料提供(7 月上旬)

対話参加希望者の中から対話参加者 100 名程度を決定し、事前に対話会関係資料の送付を行う。

- (3) 対話会開催(7 月 15 日)

詳細上記のとおり。1 日のうちで 1 グループ 10 名程度のグループ対話と専門家への質問コーナーに分けて 2 サイクル実施し、その前後に通算 2 回目・3 回目のアンケートを実施する。

- (4) 調査結果分析(7 月下旬～8 月下旬)

7. 実施結果概要

<対話型アンケートについて>

- ・ 参加者は、事前学習資料やグループ対話への参加、全体質問会での専門家との質疑応答が自分の考えをまとめる上で役に立ったとしている。
- ・ 参加者の約3分の2が事前学習資料を全部読んできているが、内容がわかりにくい面もあったとしている。
- ・ 参加者は、グループ対話の内容が県政で活用されることを期待している。
- ・ 参加者は、今回の対話型アンケートを通じて、テーマへの理解が深まり、県政への関心も高まったとしている。
- ・ 参加者からは、県の方針や考え方を踏まえた対話を期待していた意見等が寄せられた。

<テーマについて>

- ・ 問1～問2にある「地方分権・地域主権改革」や「関西広域連合」の取組に積極的に取り組んでいくことについては、第1回目～第3回目のアンケートを通してほとんど変化がなく、賛成または肯定的である人が多い。
- ・ 問3～問4にある国出先機関の関西広域連合への移管については、賛成または肯定的である人の方が多いが、事前学習・グループ対話・全体質問会を通じて、様々な考え方を知り熟慮した結果、移管による効果については、不安や懸念等を踏まえた回答がアンケートの回数を経るに従ってやや増加した。
- ・ 問5にある滋賀県の将来のすがた（枠組み）については、滋賀県を存続し、広域的な課題については関西広域連合等が行うことを望む回答がアンケートの回数を経るに従って増加した。
- ・ この結果から、県が進めている「地方分権・地域主権改革」や「関西広域連合」の取組には総論としては賛成であるが、個別の理解できなかつた、あるいは納得できなかつた部分について、賛成の度合いが鈍る傾向が第1回目～第3回目のアンケートを経て増えていったのではないかと考えられる。
- ・ テーマである関西広域連合については、県としての参加・取組については全体として賛成いただいているところであるが、個別の取組の進め方、連合への参加の影響（メリット・デメリットなど）はまだ充分ご理解が得られていない点がある。

8. 評価・考察

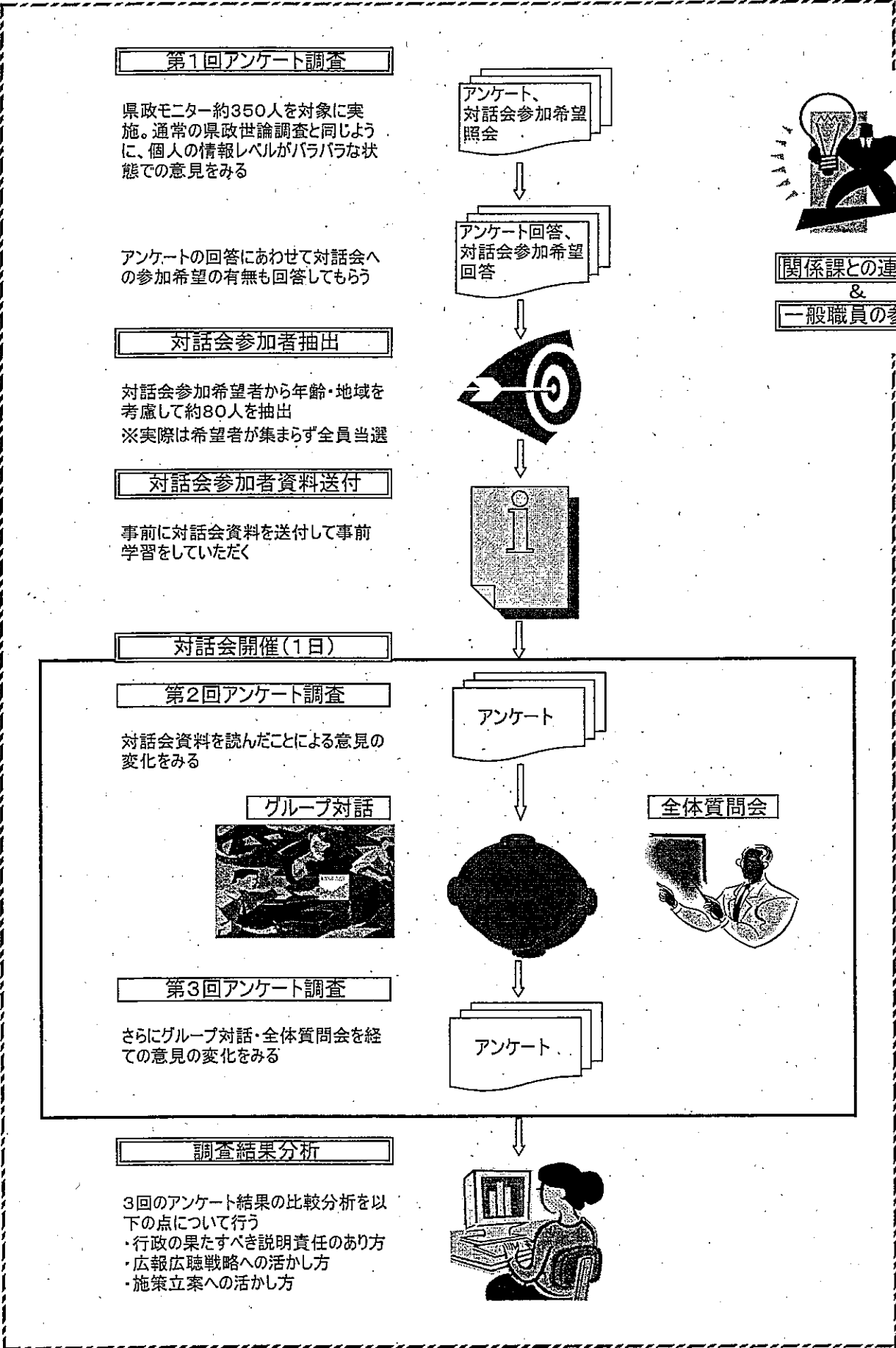
- ・ 手法そのものについては、当日のスケジュールなど反省すべき点・課題はあるものの、県民の声を聴き、県政への理解を深めてもらう手法として有効であると考える。
- ・ テーマ所管課にとっては、テーマの認識度合いやどういった点で理解が得られてないかということ明らかになり、今後の施策を進めるうえで参考となったと考える。
- ・ 県政モニターは県政には関心を持っているが、テーマについて特に知識があり意見を持っているわけではなく、その点で、サイレントマジョリティに近い人々の声を聴くことができた。
- ・ 県政モニターを活用することで無作為抽出に伴う作業も省略でき、効率的に運営できた。
- ・ アンケート結果に一喜一憂するのではなく、意見の推移をみることによって課題が明らかになることと、またそこで出た生の声・議論の過程が大切であり、それを職員が直接聴くことが重要であると考え。そういった点で県政世論調査に見られる、ある時点での県民の意見の一断面を切り出すのとは違う、県政と県民の間の双方向型の調査としてやる意義がある。
- ・ 県が一方向的に説明をするのではなく、県民同士が対話をすることでより率直かつ自由な意見を生み出す仕組みとなる。

9. 今後

- ・ 広報課において、県政モニターまたは県政世論調査対象者を参加者とした本県独自の対話型アンケートの手法をマニュアル化する。
- ・ このマニュアルを、基本計画や施策の策定時に、専門家を交えた審議会等と並行しながら、施策の受け手である住民や事業者により深く考えてもらい、計画の方向性を定めるための県民意見を拝聴する場合のツールとして、テーマ所管課が活用することを検討していく。

対話型アンケートの実施

広報課





アンケート



グループ対話1



グループ対話2



全体質問会

資料

『滋賀の未来のカタチ 県民対話』—対話型アンケート—集計結果

※注1 第1回目のアンケートは「滋賀ネット受付サービス」を利用しているため、システム上「不明・無回答」は発生しないので「—」表示としています。
 ※注2 グラフでは「不明・無回答」は表象していません。
 ※注3 選択肢「その他」の内容は省略しています。
 ※注4 単位:人

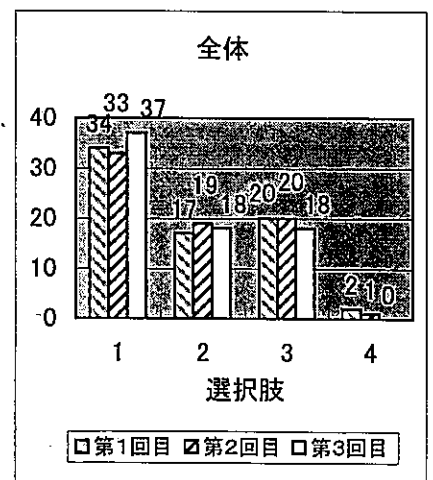
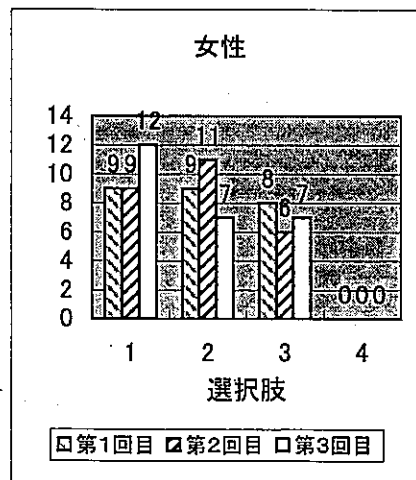
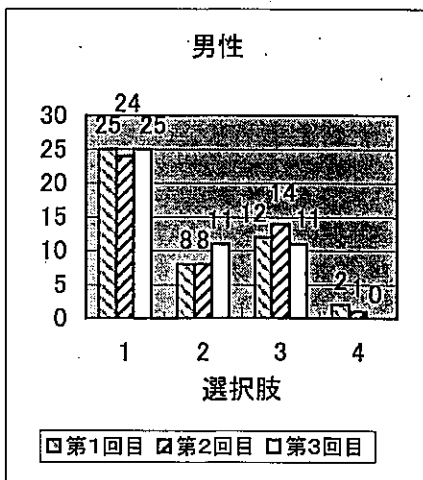
参加者属性

性別	
男性	47
女性	26
計	73

年代	
10・20歳代	3
30歳代	2
40歳代	20
50歳代	16
60歳代	19
70歳以上	13
合計	73

問1 滋賀県は、国の権限と財源を住民に身近な地方公共団体に移し、地域のことは地域で決めることができるようにする「地方分権・地域主権改革」を進めています。このことについて、今後どのようにすればよいとお考えですか。(〇は1つだけ)

		1 積極的に 取り組ん でいく	2 取り組ん でいく	3 慎重に取 り組んでい く	4 その他	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	25	8	12	2	—	47
	第2回目	24	8	14	1	0	47
	第3回目	25	11	11	0	0	47
女性	第1回目	9	9	8	0	—	26
	第2回目	9	11	6	0	0	26
	第3回目	12	7	7	0	0	26
全体	第1回目	34	17	20	2	—	73
	第2回目	33	19	20	1	0	73
	第3回目	37	18	18	0	0	73



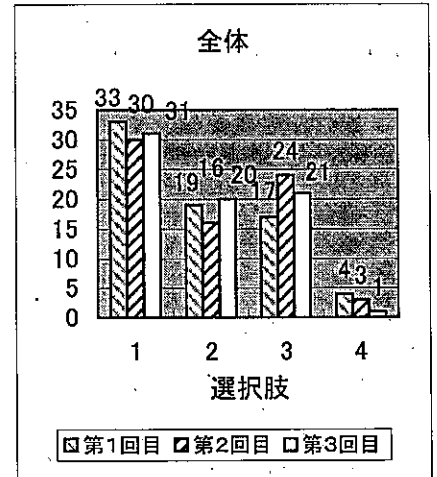
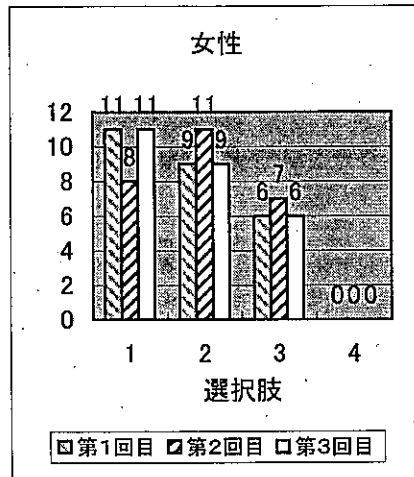
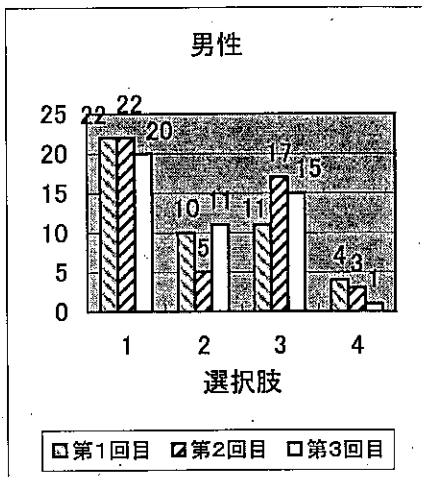
問2 滋賀県は、関西の他の自治体※1と「関西広域連合※2」を設置し、府県域をまたぐ広域的な課題への対応を進めています。このことについて、今後どのようにすればよいとお考えですか。

(○は1つだけ)

※1大阪府・京都府・滋賀県・和歌山県・兵庫県・徳島県・鳥取県・大阪市・堺市(京都市・神戸市は加入見込み)

※2地方自治法に基づく特別地方公共団体。現在、防災や医療、観光、産業、環境等の分野で関西全体にまたがる仕事を行っている。

		1 積極的に 取り組ん でいく	2 取り組ん でいく	3 慎重に取 り組んでい く	4 その他	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	22	10	11	4	—	47
	第2回目	22	5	17	3	0	47
	第3回目	20	11	15	1	0	47
女性	第1回目	11	9	6	0	—	26
	第2回目	8	11	7	0	0	26
	第3回目	11	9	6	0	0	26
全体	第1回目	33	19	17	4	—	73
	第2回目	30	16	24	3	0	73
	第3回目	31	20	21	1	0	73

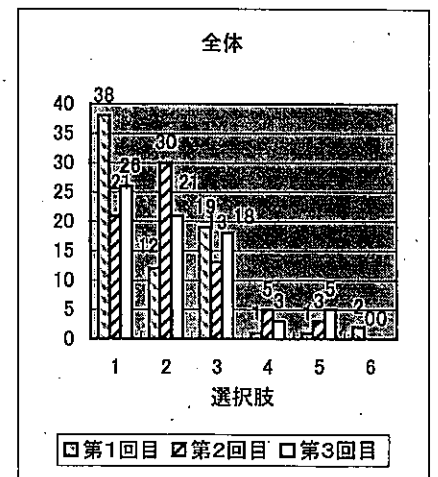
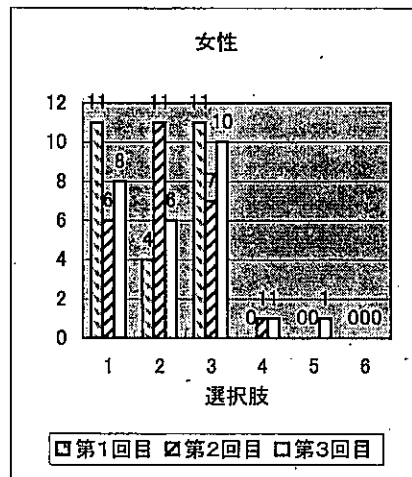
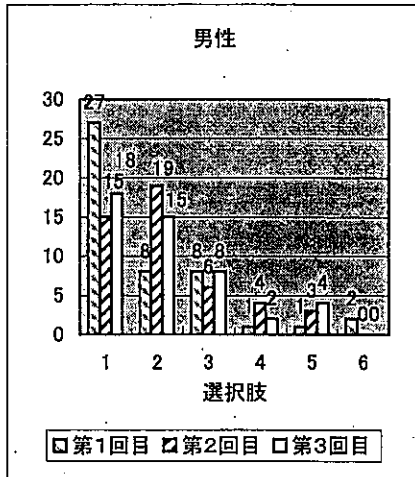


問3 滋賀県は、現在国の出先機関※1が行っている仕事を関西広域連合へ移管する取り組み※2を進めています。そして、府県で担える仕事については、関西広域連合から府県へ順次移管していくことを目指しています。こうした取り組みに賛成ですか、反対ですか。1～6のうち当てはまるものを選んでください。(〇は1つだけ)

※1国の出先機関…国の省庁が、ブロックごとに設置している地方機関。関西には、近畿農政局、近畿地方整備局、近畿運輸局、近畿経済産業局、近畿地方環境事務所などがある。

※2関西広域連合では、第1段階として近畿経済産業局、近畿地方整備局、近畿地方環境事務所の3機関の移管を求めている。

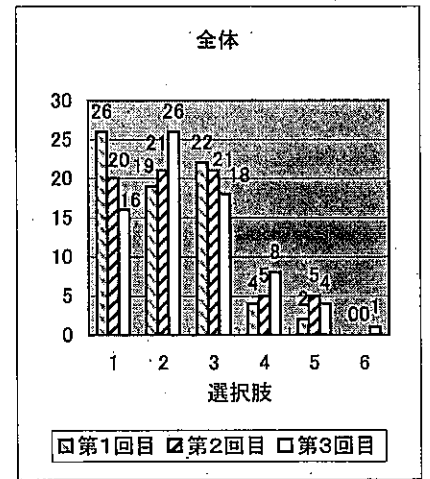
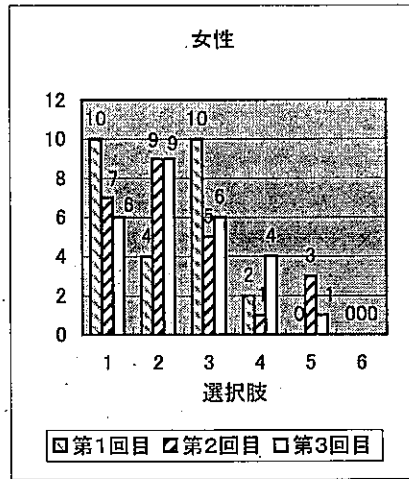
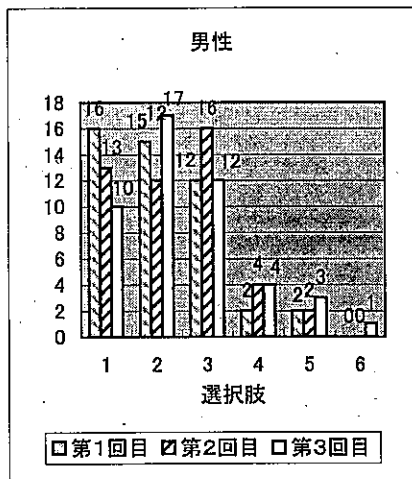
		1 賛成	2	3	4	5	6 反対	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	27	8	8	1	1	2	—	47
	第2回目	15	19	6	4	3	0	0	47
	第3回目	18	15	8	2	4	0	0	47
女性	第1回目	11	4	11	0	0	0	—	26
	第2回目	6	11	7	1	0	0	1	26
	第3回目	8	6	10	1	1	0	0	26
全体	第1回目	38	12	19	1	1	2	—	73
	第2回目	21	30	13	5	3	0	1	73
	第3回目	26	21	18	3	5	0	0	73



問4 国の出先機関から関西広域連合への事業の移管が行われた場合、ア～キの項目について、どうなると思いますか。それぞれの項目について、1～6のうち当てはまるものを選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

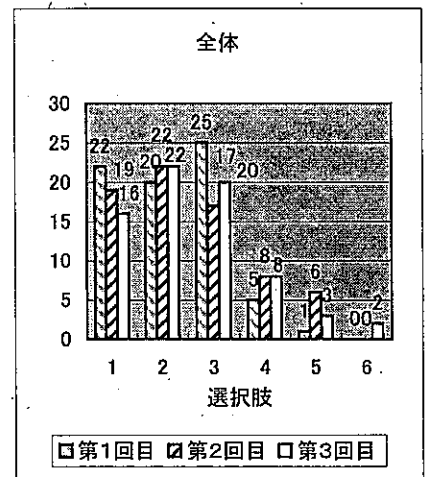
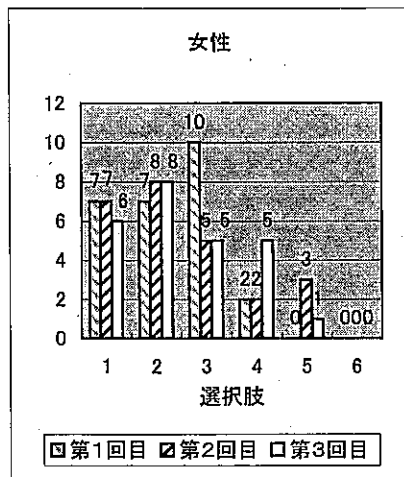
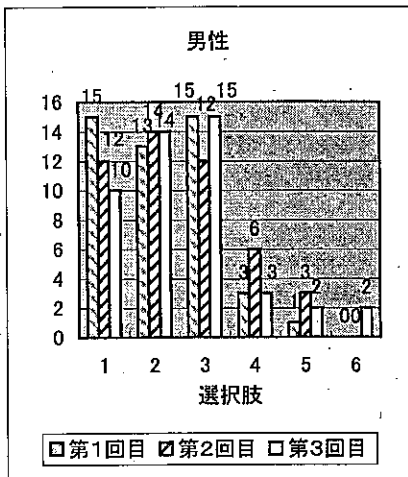
ア 地域の実情に応じた柔軟な行政サービスの提供

		1 よくなる	2	3	4	5	6 悪くなる	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	16	15	12	2	2	0	—	47
	第2回目	13	12	16	4	2	0	0	47
	第3回目	10	17	12	4	3	1	0	47
女性	第1回目	10	4	10	2	0	0	—	26
	第2回目	7	9	5	1	3	0	1	26
	第3回目	6	9	6	4	1	0	0	26
全体	第1回目	26	19	22	4	2	0	—	73
	第2回目	20	21	21	5	5	0	1	73
	第3回目	16	26	18	8	4	1	0	73



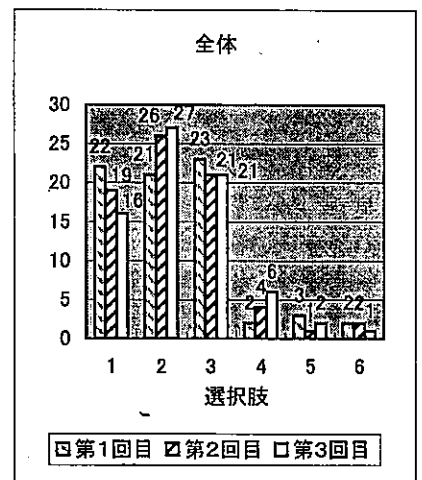
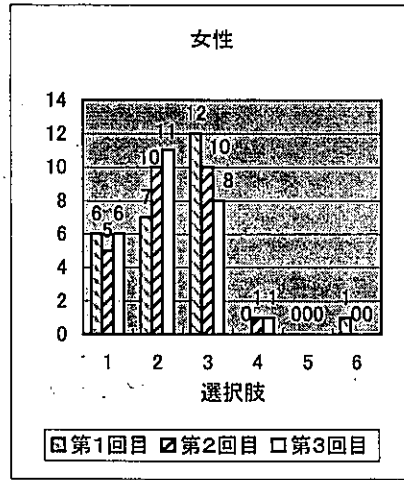
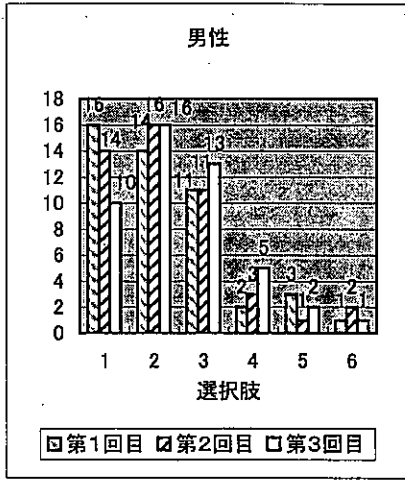
イ 住民の意見の反映

		1 よくなる	2	3	4	5	6 悪くなる	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	15	13	15	3	1	0	—	47
	第2回目	12	14	12	6	3	0	0	47
	第3回目	10	14	15	3	2	2	1	47
女性	第1回目	7	7	10	2	0	0	—	26
	第2回目	7	8	5	2	3	0	1	26
	第3回目	6	8	5	5	1	0	1	26
全体	第1回目	22	20	25	5	1	0	—	73
	第2回目	19	22	17	8	6	0	1	73
	第3回目	16	22	20	8	3	2	2	73



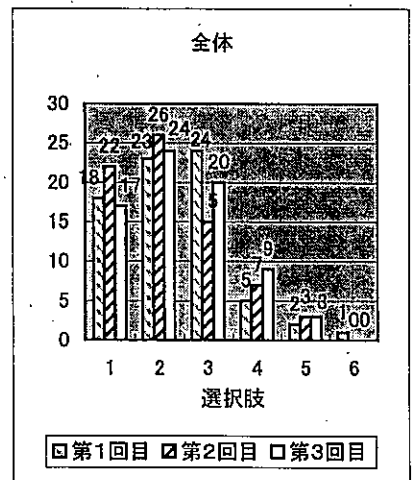
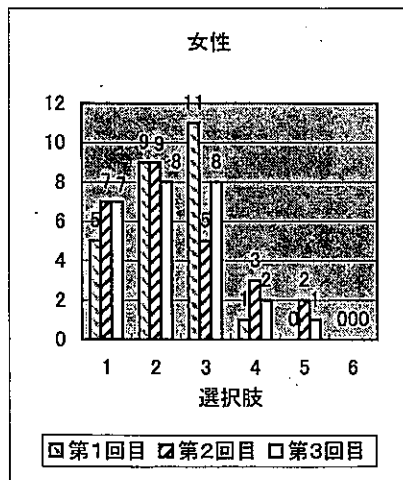
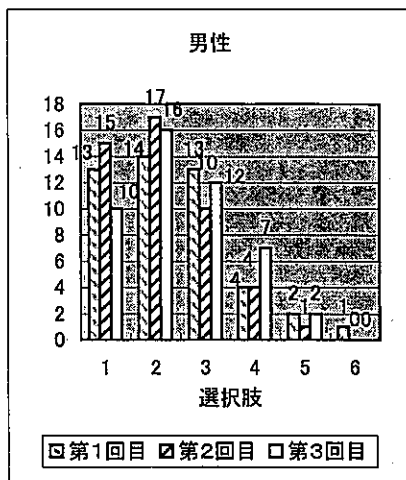
ウ 国と地方による同じような仕事の実施

		1 減る	2	3	4	5	6 増える	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	16	14	11	2	3	1	—	47
	第2回目	14	16	11	3	1	2	0	47
	第3回目	10	16	13	5	2	1	0	47
女性	第1回目	6	7	12	0	0	1	—	26
	第2回目	5	10	10	1	0	0	0	26
	第3回目	6	11	8	1	0	0	0	26
全体	第1回目	22	21	23	2	3	2	—	73
	第2回目	19	26	21	4	1	2	0	73
	第3回目	16	27	21	6	2	1	0	73



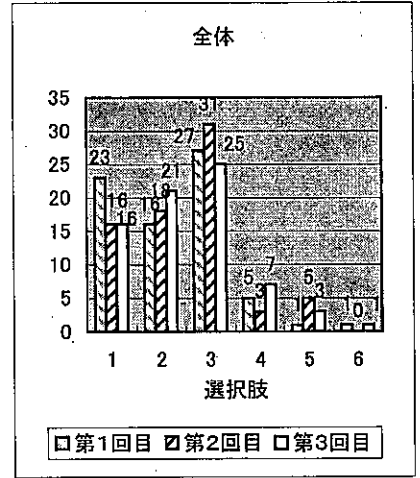
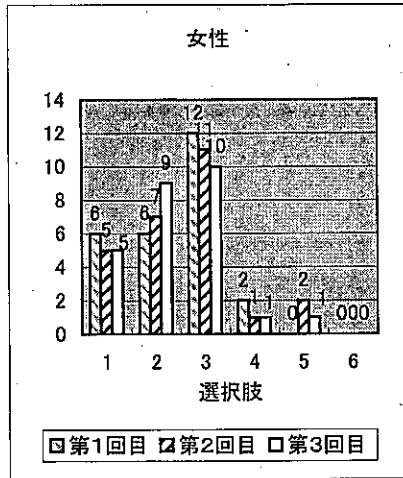
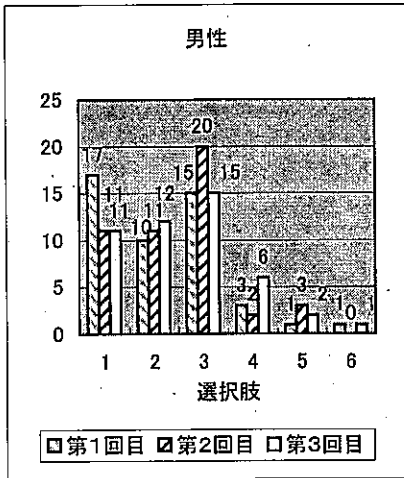
エ 許認可などにかかる事務処理のスピード

		1 速くなる	2	3	4	5	6 遅くなる	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	13	14	13	4	2	1	—	47
	第2回目	15	17	10	4	1	0	0	47
	第3回目	10	16	12	7	2	0	0	47
女性	第1回目	5	9	11	1	0	0	—	26
	第2回目	7	9	5	3	2	0	0	26
	第3回目	7	8	8	2	1	0	0	26
全体	第1回目	18	23	24	5	2	1	—	73
	第2回目	22	26	15	7	3	0	0	73
	第3回目	17	24	20	9	3	0	0	73



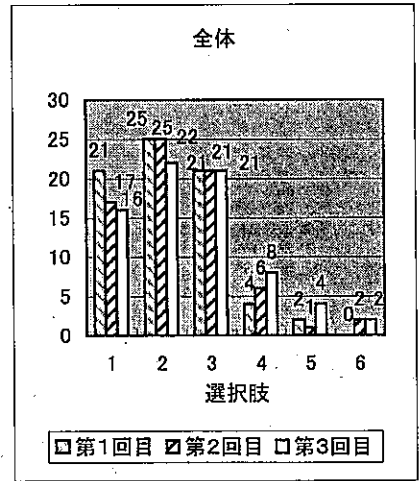
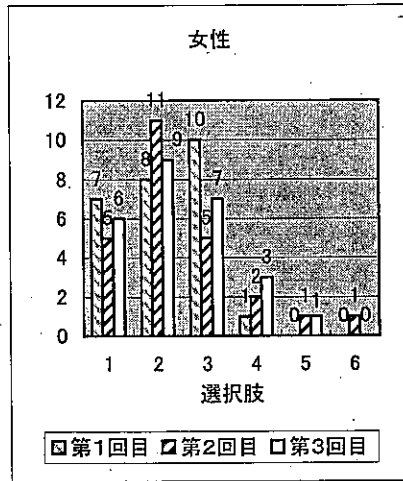
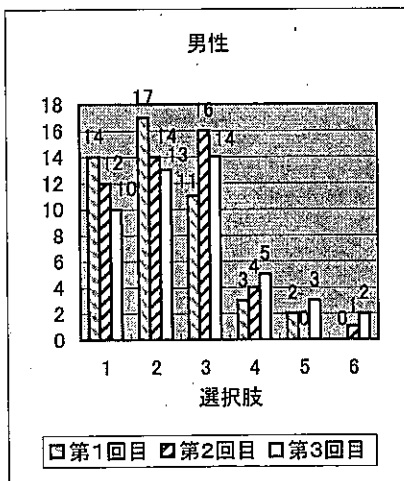
才 地域全体を考えた総合的な対応

		1 よくなる	2	3	4	5	6 悪くなる	不明・無 回答	合計	
男性	第1回目	17		10	15	3	1	1	—	47
	第2回目	11		11	20	2	3	0	0	47
	第3回目	11		12	15	6	2	1	0	47
女性	第1回目	6		6	12	2	0	0	—	26
	第2回目	5		7	11	1	2	0	0	26
	第3回目	5		9	10	1	1	0	0	26
全体	第1回目	23		16	27	5	1	1	—	73
	第2回目	16		18	31	3	5	0	0	73
	第3回目	16		21	25	7	3	1	0	73



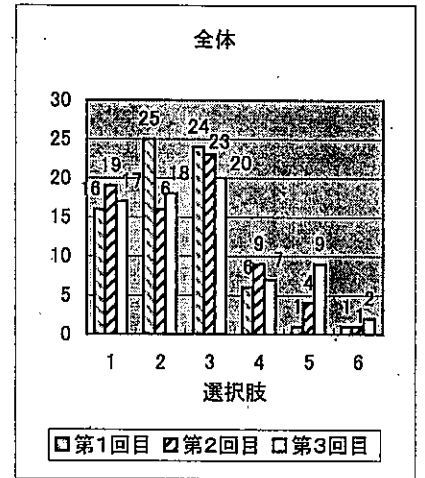
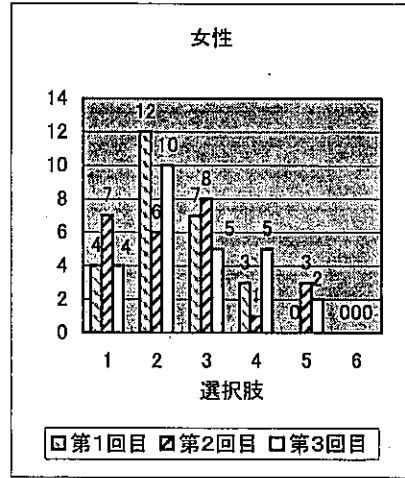
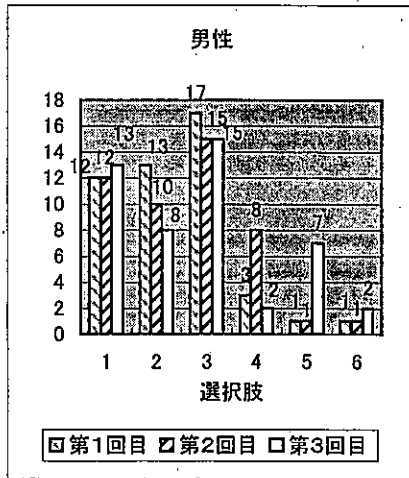
力 地域が希望する順番での事業の実施

		1 よくなる	2	3	4	5	6 悪くなる	不明・無 回答	合計	
男性	第1回目	14		17	11	3	2	0	—	47
	第2回目	12		14	16	4	0	1	0	47
	第3回目	10		13	14	5	3	2	0	47
女性	第1回目	7		8	10	1	0	0	—	26
	第2回目	5		11	5	2	1	1	1	26
	第3回目	6		9	7	3	1	0	0	26
全体	第1回目	21		25	21	4	2	0	—	73
	第2回目	17		25	21	6	1	2	1	73
	第3回目	16		22	21	8	4	2	0	73



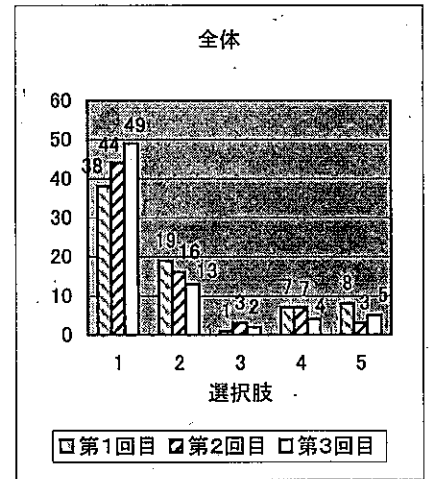
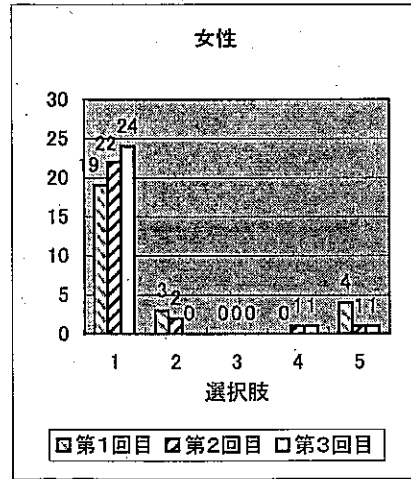
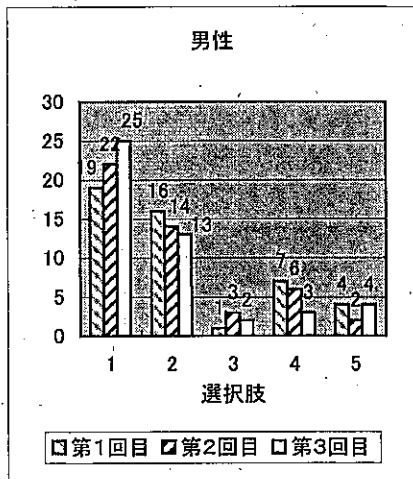
キ 計画づくりや事業を実施するまでの意思決定のスピード

		1 速くなる	2	3	4	5	6 遅くなる	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	12	13	17	3	1	1	—	47
	第2回目	12	10	15	8	1	1	0	47
	第3回目	13	8	15	2	7	2	0	47
女性	第1回目	4	12	7	3	0	0	—	26
	第2回目	7	6	8	1	3	0	1	26
	第3回目	4	10	5	5	2	0	0	26
全体	第1回目	16	25	24	6	1	1	—	73
	第2回目	19	16	23	9	4	1	1	73
	第3回目	17	18	20	7	9	2	0	73



問5 現在、府県域をまたぐ広域的な課題への対応及び地方分権・地域主権改革を進めるために、関西広域連合を活用した取り組みを行っています。滋賀県の将来のすがたについて、あなたは、どのような枠組みが望ましいと思いますか。(○は1つだけ)

		1 滋賀県は 存続。広 域的な課 題への対 応は特別 公共団体 である広 域連合等 が行う。 (参考図 1)	2 滋賀県は 廃止。複 数府県か らなる新 たな「州」 を設置す る。(参考 図2)	3 滋賀県は 廃止。近 隣府県 (地域)と 合併す る。(参考 図3)	4 滋賀県は 存続。近 隣府県は 合併また は道州制 へ移行し た場合も、 滋賀県は 単独で存 続。(参考 図4)	5 その他	不明・無 回答	合計
男性	第1回目	19	16	1	7	4	—	47
	第2回目	22	14	3	6	2	0	47
	第3回目	25	13	2	3	4	0	47
女性	第1回目	19	3	0	0	4	—	26
	第2回目	22	2	0	1	1	0	26
	第3回目	24	0	0	1	1	0	26
全体	第1回目	38	19	1	7	8	—	73
	第2回目	44	16	3	7	3	0	73
	第3回目	49	13	2	4	5	0	73



問6 問5でその選択肢を選んだ理由をお教えてください。

- 1 滋賀県は存続。広域的な課題への対応は特別公共団体である広域連合等が行う。
- 2 滋賀県は廃止。複数府県からなる新たな「州」を設置する。
- 3 滋賀県は廃止。近隣府県(地域)と合併する。
- 4 滋賀県は存続。近隣府県は合併または道州制へ移行した場合も、滋賀県は単独で存続。
- 5 その他 →次の「その他の内容」欄に具体的に記入してください。

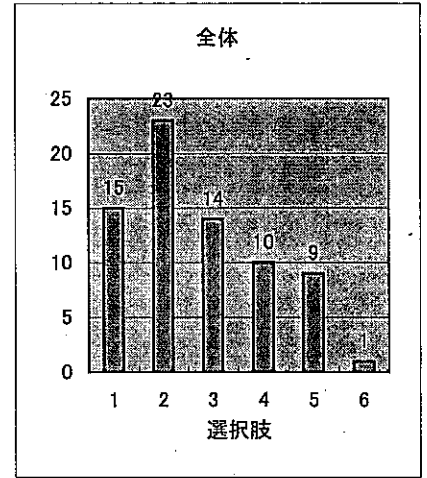
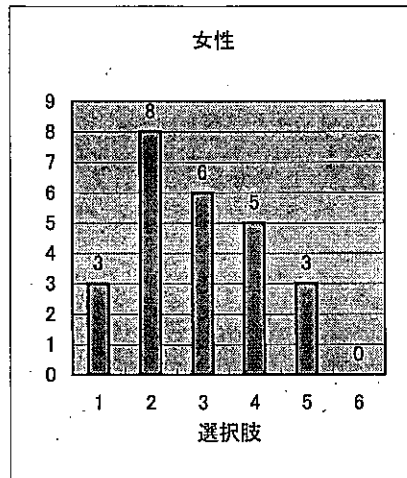
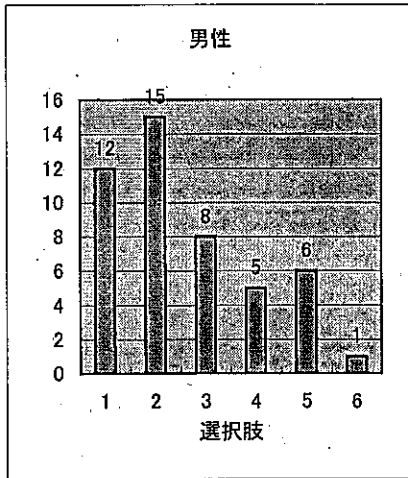
(回答別に抜粋)

1	<p>直接投票で選んだ首長の統括する県域は存続し、その上で広域的連携を図る益のあるものに対応していくべき。県域の既得権等のき損のないようにすべき[大都市優先であってはならない]。討論を通して、ゆるやかな連合の中で滋賀県のもつ独自性を埋没させることなく活かしていく道が拓けるのではないかと考えるに至った。慎重に取り組むのは当然であるが、適切な時機を逃してはならない。行政からのPRは重要であるが、県民ひとりひとりも自覚をもってしっかり考えていきたい。</p> <p>関西広域連合の枠組みが滋賀県にとって望ましい組あわせなのかどうか不明な点もあると思う。隣の福井や岐阜などもつながりのある県なので、大阪中心かもしれないが、それでも住民にとってはとても頼もしい存在で大いに進めてほしい。滋賀県固有の課題や特殊性は県独自の活動や選択肢があるはずで、広域連合で埋没することを恐れるから、広域連合の利点を考えたうえで、県の存続を求める。豊かな自然・文化・歴史社跡を有する県の独自性を守りながら、ムダを廃して、行政の合理化を進めること。</p> <p>滋賀から大阪へ仕事へ出かけている。夫は京都へ(出張は、東京、九州、アジア)。娘は京都へ通学。滋賀県内だけで、生活が完結しない。さまざまなことが広域で処理されることに賛成。しかし、県にはそのよさがあるため、今は県の存続があるほうがよいと考える。広域連合に、権限を移すことができるならば、その方がよいと思った。(道州制よりも)</p> <p>琵琶湖の環境保全の大切さは湖畔に住む滋賀県民でないと理解できないと思う。そこに滋賀県が存在する最大の理由がある。道州制や合併は目下の情勢では必要ない。関西広域連合の機能の充実で当面は十分である。民間では、事業体の統合では苦労することが多くある。行政でも同様と思われる。しかし、広域的な課題対応は、広域連合がうまくできると思う。</p> <p>滋賀県は、行政区域として必要だと思う。しかし、他の都道府県と協働してやることで効率性が上がると考えられるところは、関西広域の行政単位でやる方が管理コストも低くなり、スピーディな対応になると思う。ただし、関西で集中が進む可能性も考えられる(特に三大都市に権限が集中)。滋賀は琵琶湖が関西の生命を支える水を扱っているので、特に広域連合に参加して、琵琶湖の保全に生きるようにするべきだと思う。滋賀県の歴史的独自性の存続が必要。</p> <p>国は国全体にかかわる機能だけを果たすにして、地域は地域で自分の責任と独自の判断で政策を展開するのがいいと思うから。関西のほうだけでも広域的な動きをだして、予算の面や行政課題をやりやすくするのが必要だと思う。今は、関西広域連合の形を進めて、どうしても必要だと感じたら、道州制へシフトするのがいいのではないだろうか？</p>
2	<p>都道府県制が制定された時点に比べて、「課題」はより多様化し、また地域の事を掌握していないと解決出来ない課題が多く、資金もかなり必要であるため、ある程度広い地域での課題解決が必要な時代になっているのではないかと。また、課題解決が狭い範囲で解決できる場合は、狭い地域(市町村など)に移管すれば良いと考える。生活に必ず必要な「飲料水」を基盤にした地域を道州制にしては…と考えている。</p> <p>将来的には道州制が望ましいと思う。(広域連合よりも)国からの多くの権限が移せるから。ただ急激に進めるのではなく、当面は広域連合が望ましいと思う。道州制になれば大阪の一人勝ちで滋賀が埋没する。広域連合で体制を整えてから道州制に移行すればよいと思う。</p> <p>日本全体の将来像を今後考えていく上でこれまでの県単位の行政では限界があり、将来100年後の日本を作る為には早く道州制へ移行し、滋賀県はそのリーダー的役割を努めていくべきだと思う。但し、中身についてはこまかい議論必要。</p>
3	<p>将来の人口及び経済を考えるとより大きな市町合併をすべきであり、道州制との整合を図り行政のムダを減らせる。</p>
4	<p>他府県に飲み込まれる。 滋賀県の独自性、特性の存続が重要</p> <p>琵琶湖という大きな財産を保有しており、歴史的にも重要な地域にあり、近江商人文化を育んだ土地であり、人、物、金、情報の利用と県民のためを中心に。</p>
5	<p>本当に滋賀県、県民にとって住みよい行政となり持続可能な仕組みになるのか今の広報だけでは判断できない。その強みを見極めたうえで複数の選択肢かつ最適な連携を図ればよいと思います。</p> <p>滋賀は存続、それ以外型はわかりません</p>

※以下の項目は対話型アンケートに関する質問で、第3回目のアンケート時のみに聞いたものです。
 問7 今回の企画(対話会資料郵送から本アンケート記述まで)において、あなた自身の考えをまとめるにあたって、次の項目は役に立ちましたか。ア～ウのそれぞれの項目について、1～6の中から当てはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

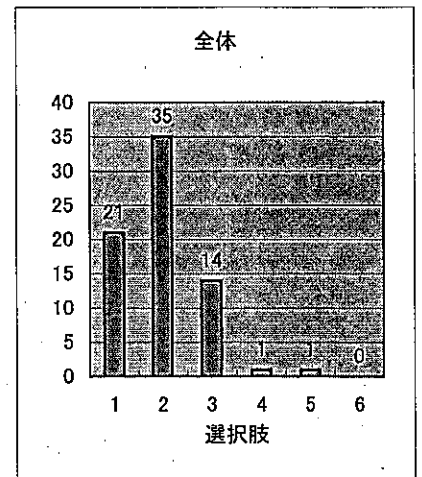
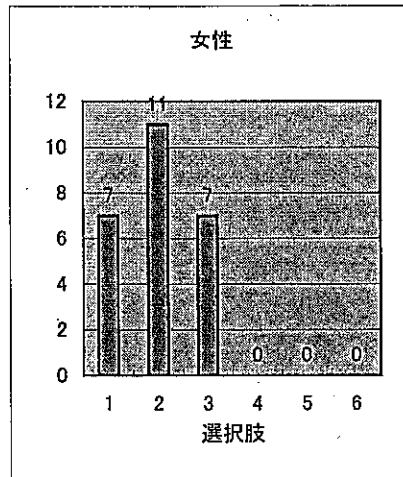
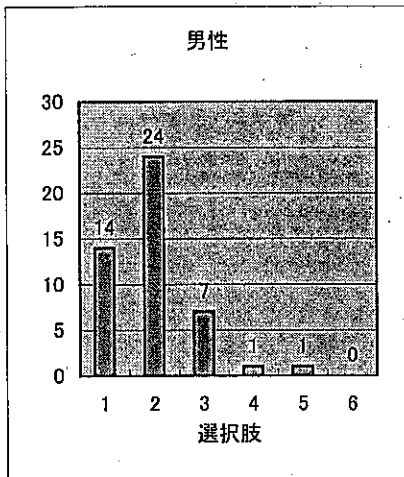
ア 対話会資料からの情報

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	12	15	8	5	6	1	0	47
女性	3	8	6	5	3	0	1	26
全体	15	23	14	10	9	1	1	73



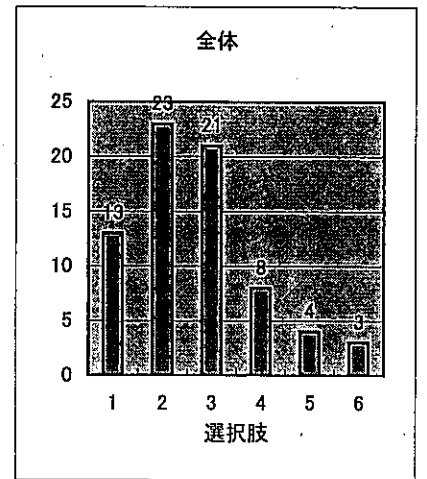
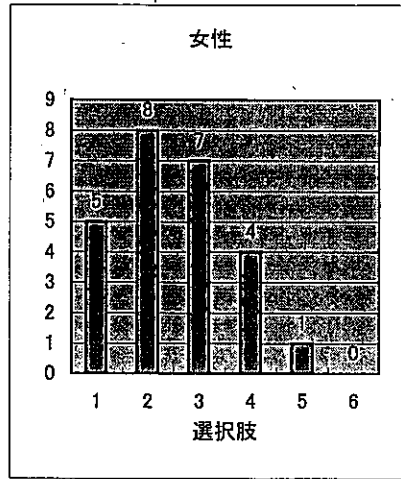
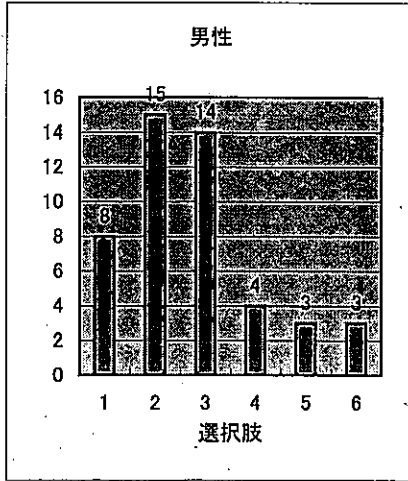
イ グループ対話への参加

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	14	24	7	1	1	0	0	47
女性	7	11	7	0	0	0	1	26
全体	21	35	14	1	1	0	1	73



ウ 全体質問会での専門家との質疑応答

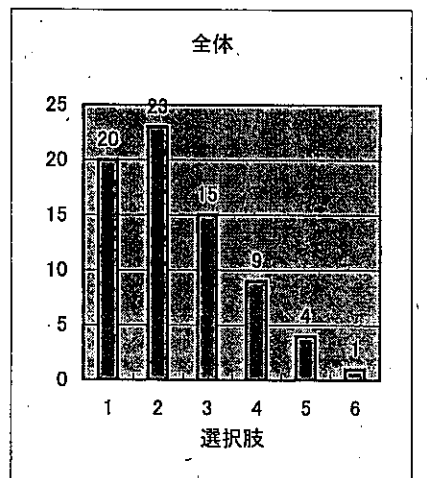
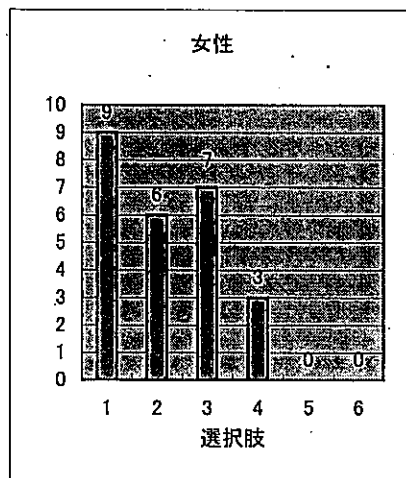
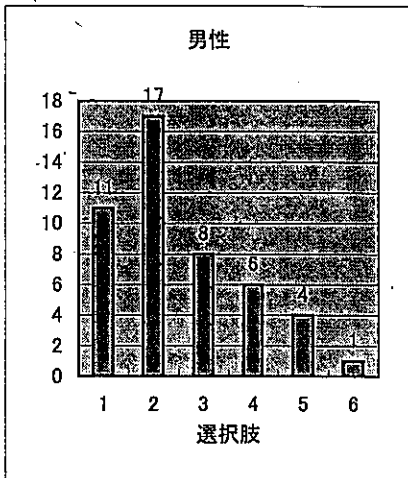
	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	8	15	14	4	3	3	0	47
女性	5	8	7	4	1	0	1	26
全体	13	23	21	8	4	3	1	73



問8 グループ対話の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。ア～オのそれぞれの項目について、1～6の中から当てはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

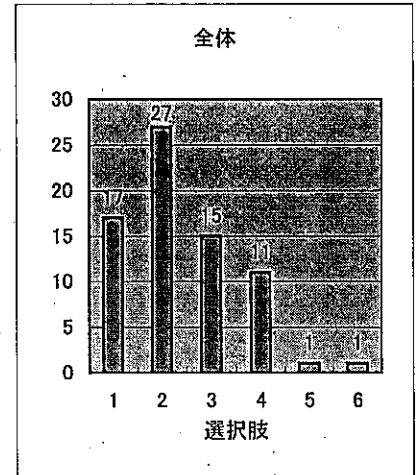
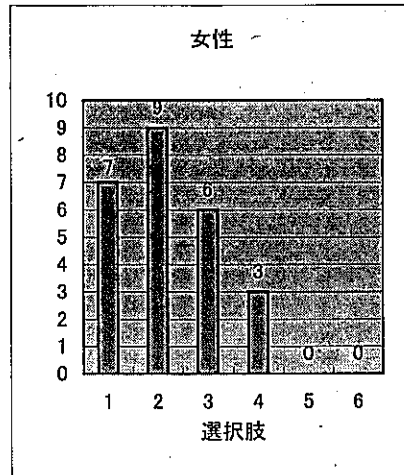
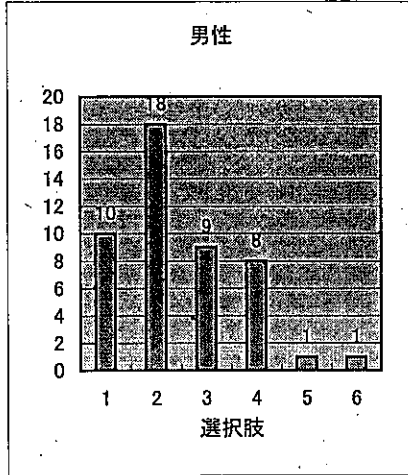
ア 進行役(ファシリテーター)は、全員が対話に参加できるような機会を適切に作っていましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	11	17	8	6	4	1	0	47
女性	9	6	7	3	0	0	1	26
全体	20	23	15	9	4	1	1	73



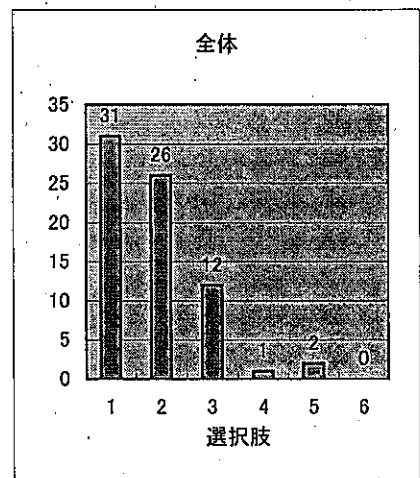
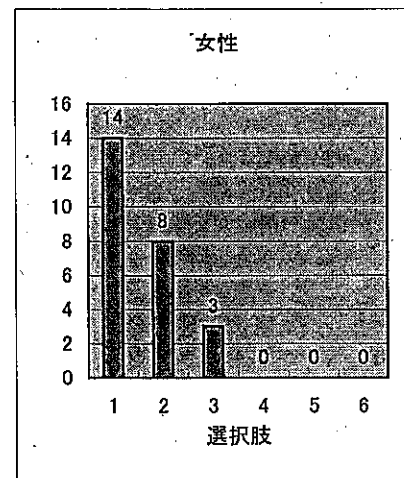
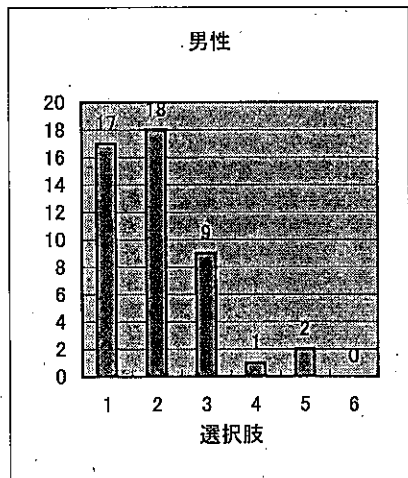
イ 話し合うべき内容を話し合えましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	10	18	9	8	1	1	0	47
女性	7	9	6	3	0	0	1	26
全体	17	27	15	11	1	1	1	73



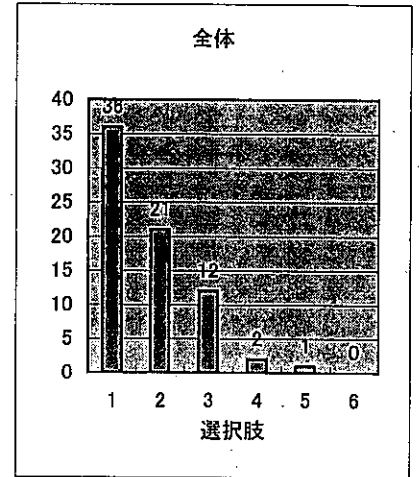
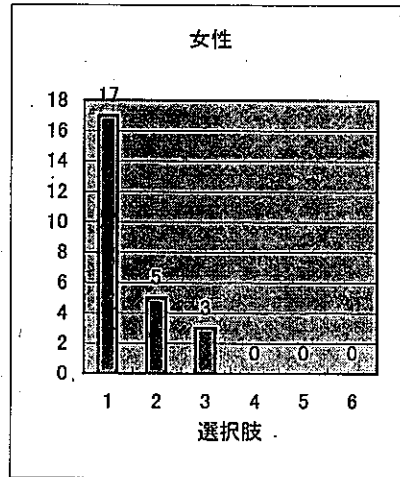
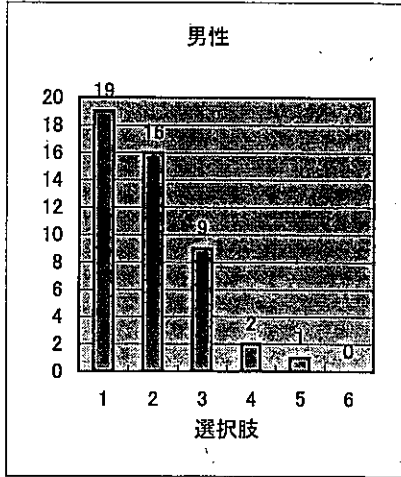
ウ 他の参加者の意見は参考になりましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	17	18	9	1	2	0	0	47
女性	14	8	3	0	0	0	1	26
全体	31	26	12	1	2	0	1	73



工 自分と異なる立場の意見にも、良いものがありましたか。

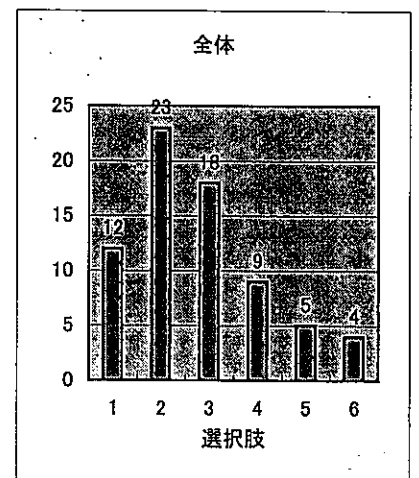
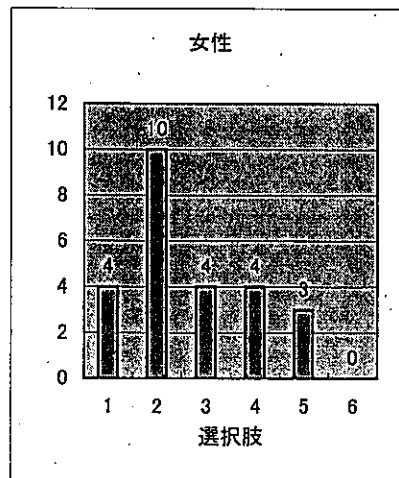
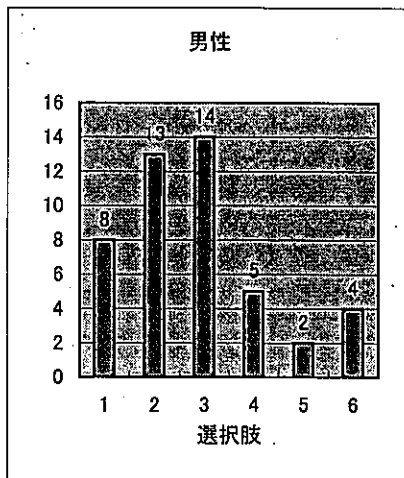
	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	19	16	9	2	1	0	0	47
女性	17	5	3	0	0	0	1	26
全体	36	21	12	2	1	0	1	73



問9 全体質問会の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。ア～オのそれぞれの項目について、1～6の中から当てはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

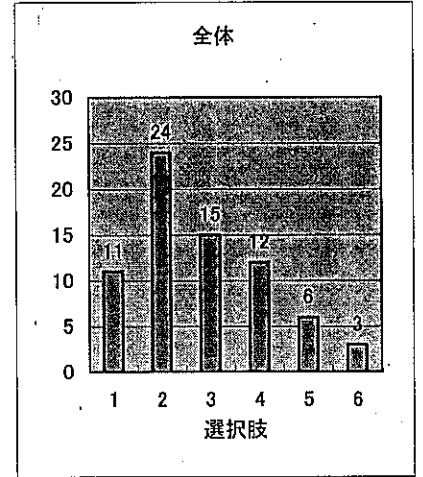
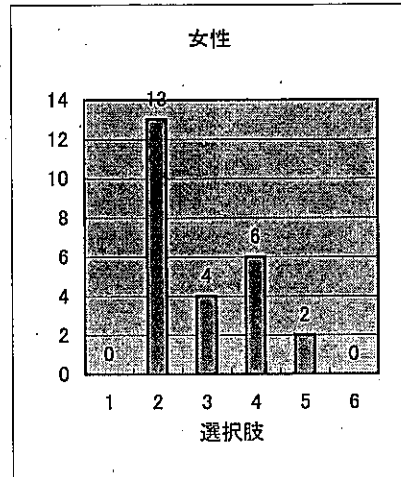
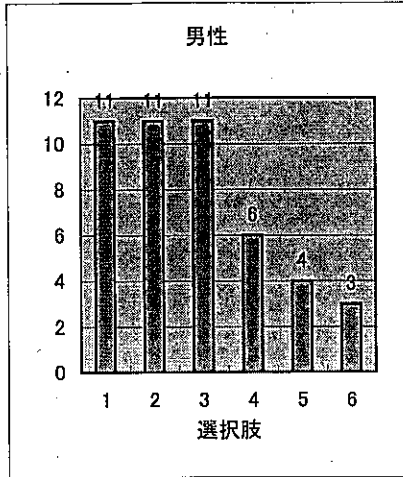
ア 司会者は適切に議論を整理していましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	8	13	14	5	2	4	1	47
女性	4	10	4	4	3	0	1	26
全体	12	23	18	9	5	4	2	73



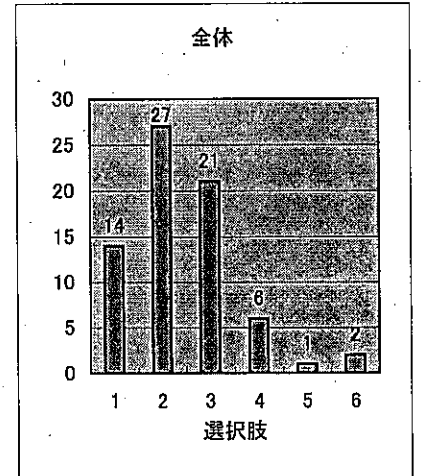
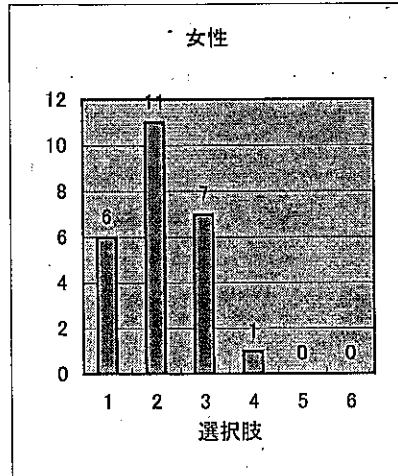
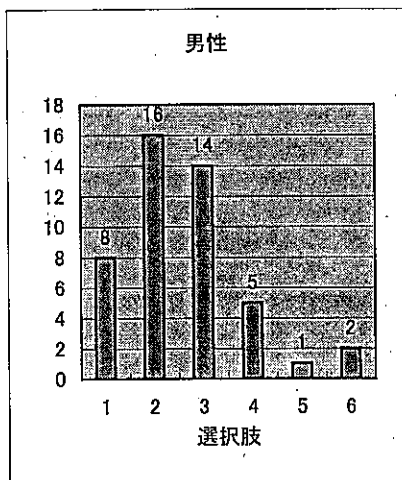
イ 専門家の回答は適切でしたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わ ない	不明・無 回答	合計
男性	11	11	11	6	4	3	1	47
女性	0	13	4	6	2	0	1	26
全体	11	24	15	12	6	3	2	73



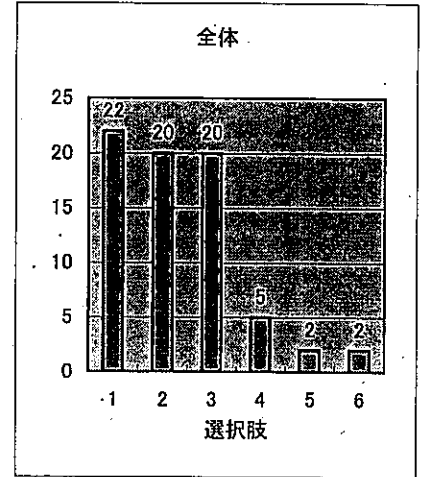
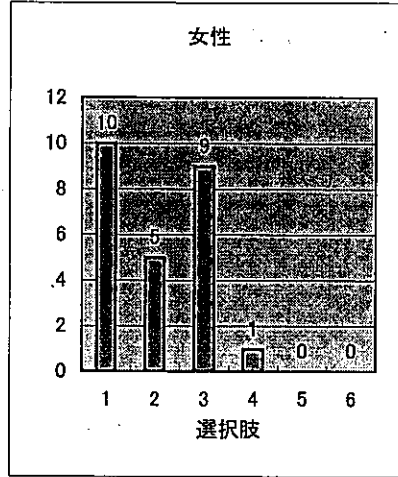
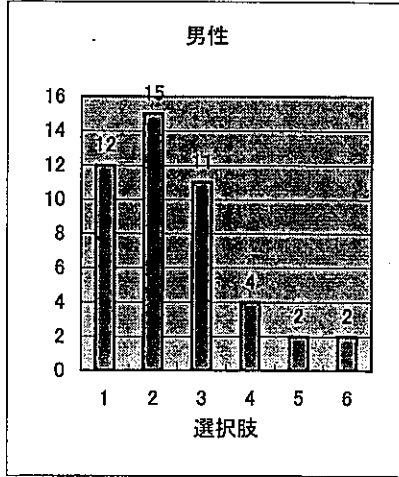
ウ 他のグループの質問の論点に興味を湧きましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わ ない	不明・無 回答	合計
男性	8	16	14	5	1	2	1	47
女性	6	11	7	1	0	0	1	26
全体	14	27	21	6	1	2	2	73



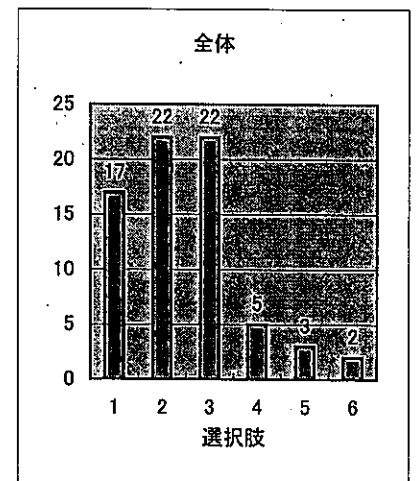
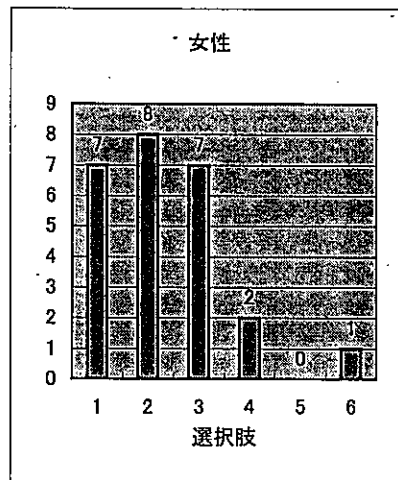
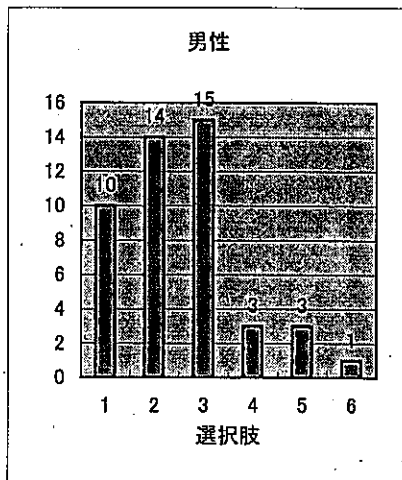
エ 全体として理解の助けになりましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わ ない	不明・無 回答	合計
男性	12	15	11	4	2	2	1	47
女性	10	5	9	1	0	0	1	26
全体	22	20	20	5	2	2	2	73



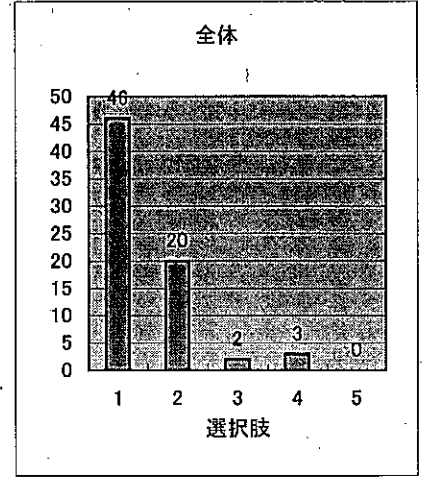
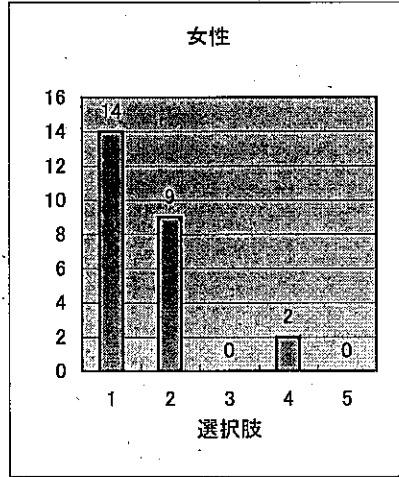
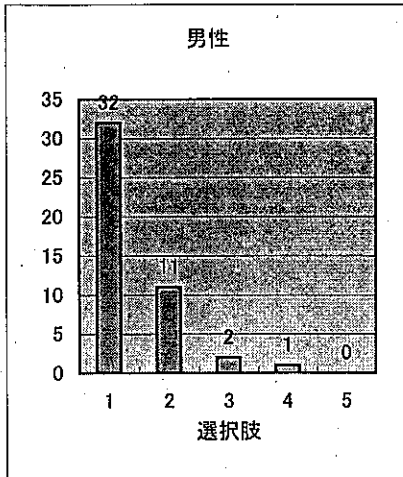
オ 第1回目の全体質問会の質疑応答が第2回目のグループ対話に役立ちましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わ ない	不明・無 回答	合計
男性	10	14	15	3	3	1	1	47
女性	7	8	7	2	0	1	1	26
全体	17	22	22	5	3	2	2	73



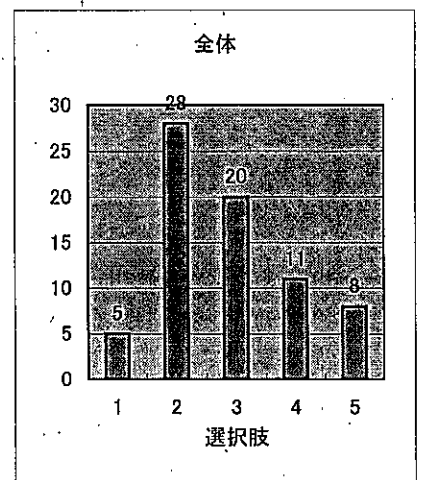
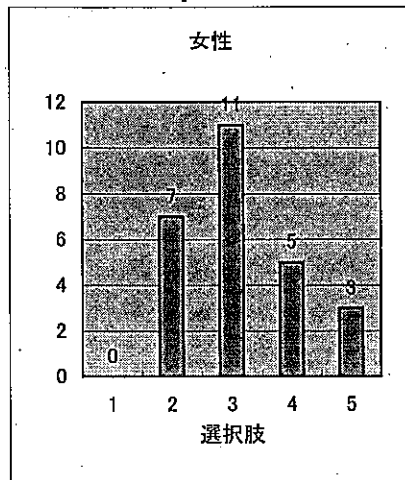
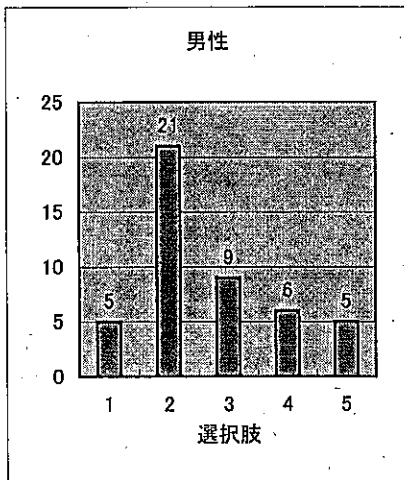
問10 本日の対話会に参加するまでに、郵送で受け取った対話会資料をご覧になりましたか。(○は1つだけ)

	1 全部読んだ	2	3	4	5 全く読んでいない	不明・無回答	合計
男性	32	11	2	1	0	1	47
女性	14	9	0	2	0	1	26
全体	46	20	2	3	0	2	73



付問1 全員におたずねします。対話会資料の内容はどうでしたか。(○は1つだけ)

	1 わかりやすかった	2	3	4	5 わかりにくかった	不明・無回答	合計
男性	5	21	9	6	5	1	47
女性	0	7	11	5	3	0	26
全体	5	28	20	11	8	1	73



付問2 全員におたずねします。対話会資料についてご意見があればお書きください。

(資料の分量や内容、表現の仕方、どのようなことでも構いません。)

(以下抜粋)

話し合いを深めていくには、資料の内容だけでは不十分だと思いました。予備知識が更に必要と感じました。

中立的な文言での資料であるがたたき台のようなものがひとつでもあればそれを基準にできた気がする。あえて中立である必要はないのではと思った

もっとメリット、デメリットを明確に表現してほしい。

定量的な資料がもっと有っても良かったと思います。

二重行政の実例など新聞記事でも良いのであれば理解しやすかった。

広域連合にするとよくなるのか否かわかりにくい。賛成論を読むと賛成したくなり反対論を読むと反対したくなる

資料としては分かりやすかったが資料から討論テーマに対する意見、疑問点などを考えることが難しかったので、その点を考慮した資料を作ってほしい。

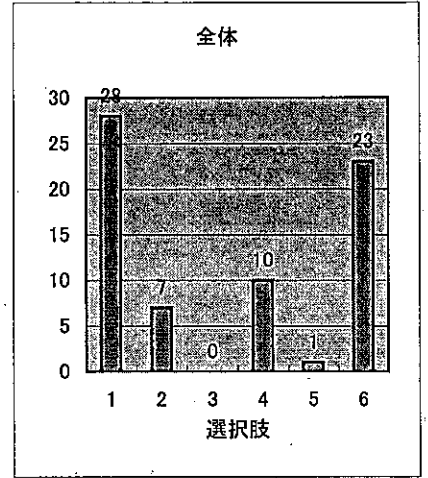
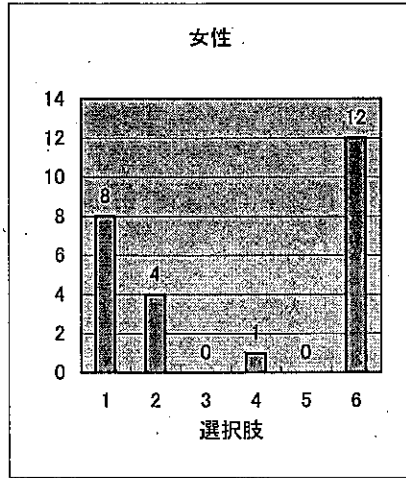
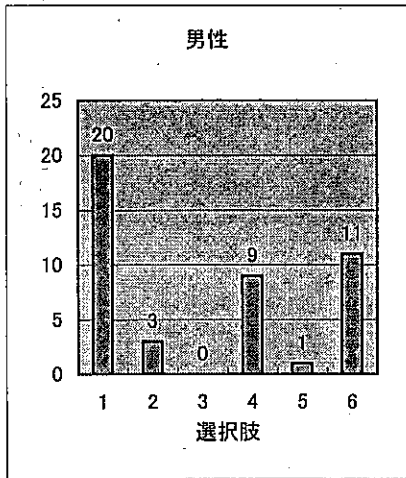
県が何故、広域連合に参加することにしたのか、理由を明確にしてほしい。議会で決まったらしいが、県民はよく知らない・・・。

各項目に対するデータが少し不足していたと思う。

プレゼンテーションの資料のように、シンプルにまとめてポイントをわかりやすく示すべき。論点が絞り込みにくい。

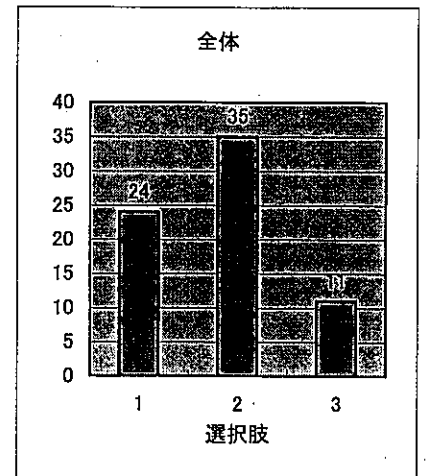
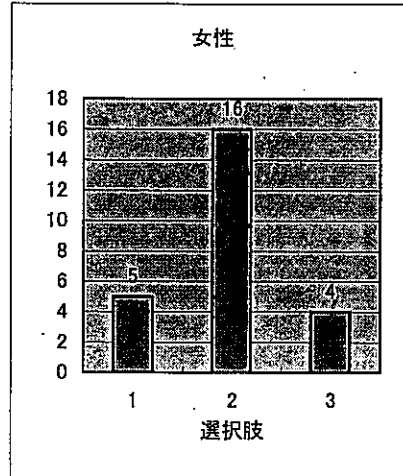
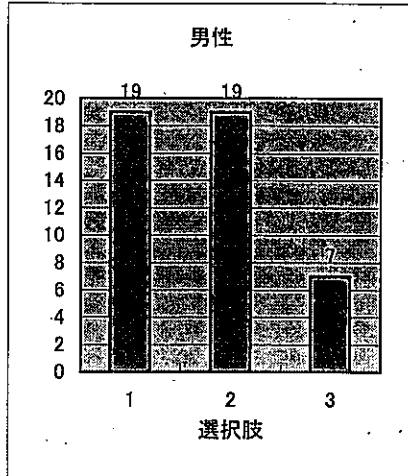
問11 本日の対話会への参加を決めた理由は次のうちどれですか(○は1つだけ)

	1 県政に自 分の意見 が活用さ れると思っ たから	2 対話型ア ンケートと いうネーミ ングに惹か れたから	3 特に予定 がなかった から	4 自分の意 見を言って みたかった から	5 謝礼金が 出るから	6 その他	不明・無 回答	合計
男性	20	3	0	9	1	11	3	47
女性	8	4	0	1	0	12	1	26
全体	28	7	0	10	1	23	4	73



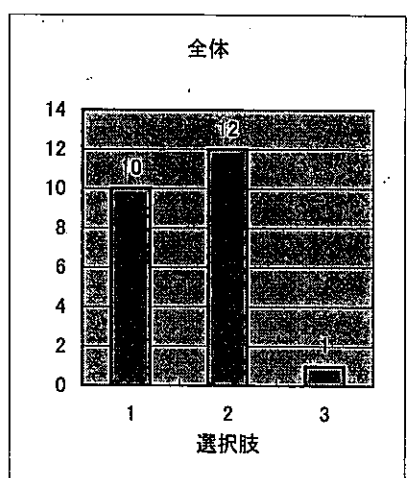
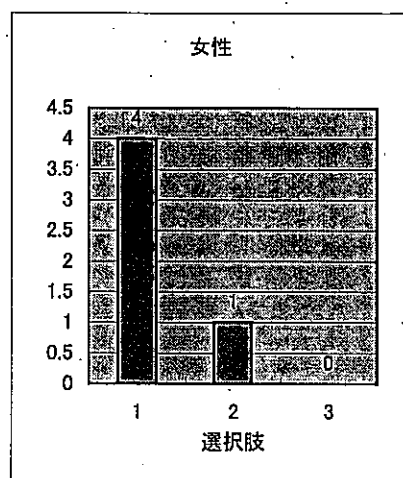
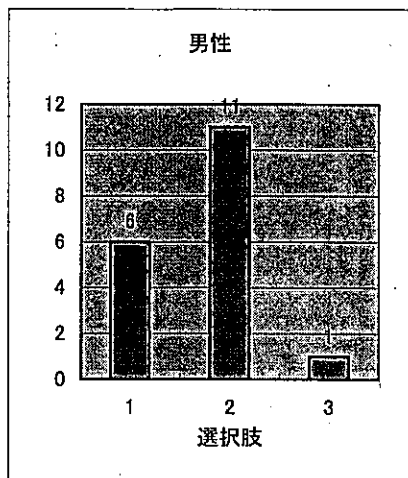
問12 謝礼金についてどのように思いましたか。(○は1つだけ)

	1 安い	2 妥当な金額	3 不要	不明・無 回答	合計
男性	19	19	7	2	47
女性	5	16	4	1	26
全体	24	35	11	3	73



付問1 問12で「1」と回答された方におたずねします。
妥当な金額はいくらぐらいだと思いますか。(○は1つだけ)

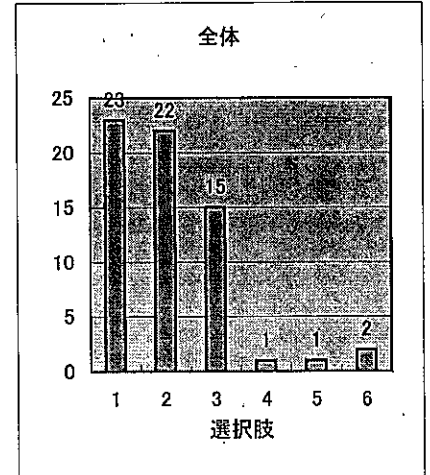
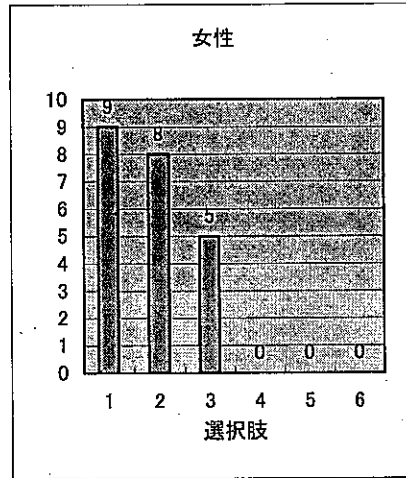
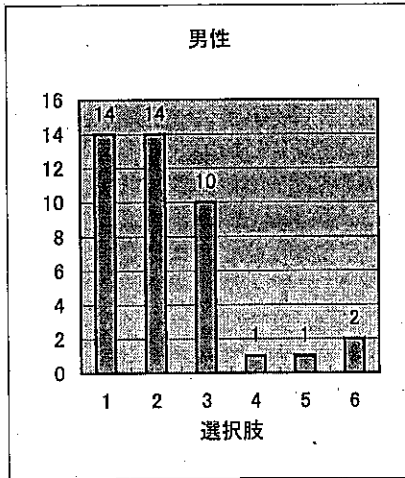
	1 3,000~ 5,000円	2 5,000~ 10,000円	3 10,000円 以上	不明・無 回答	合計
男性	6	11	1	1	19
女性	4	1	0	0	5
全体	10	12	1	1	24



問13 今回の対話型アンケートについて、あなたはどのように感じましたか。ア～イのそれぞれの項目について、1～6の中から当てはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

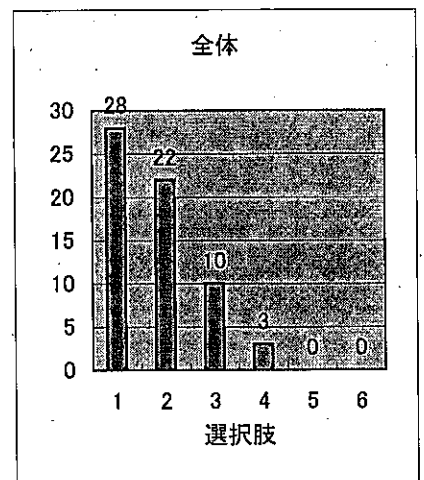
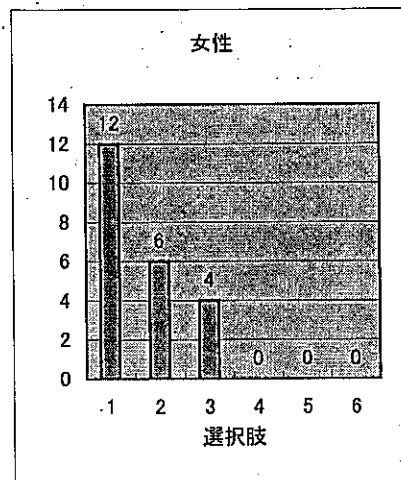
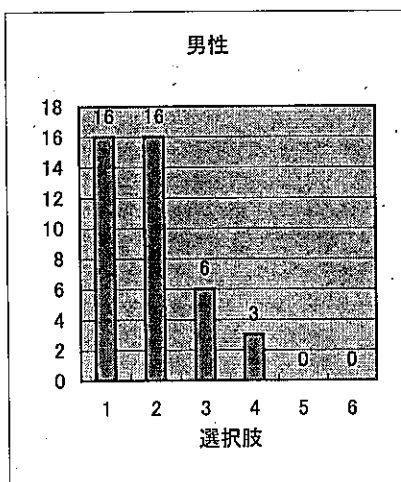
ア テーマについて理解が深まりましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	14	14	10	1	1	2	5	47
女性	9	8	5	0	0	0	4	26
全体	23	22	15	1	1	2	9	73



イ 県政に対する関心が高まりましたか。

	1 そう思う	2	3	4	5	6 そう思わない	不明・無 回答	合計
男性	16	16	6	3	0	0	6	47
女性	12	6	4	0	0	0	4	26
全体	28	22	10	3	0	0	10	73



ウ 今回の対話型アンケート全体を通してご意見やご感想があればお書きください。

(以下抜粋)

対話型アンケートは初めての経験である

単なる文書によるアンケートよりは興味深い

事務方の手間はかかるが又別のテーマで実施してはどうか

県の担当者を書きだけでなく、テーマについて、解説するオブザーバーとしてグループにつき、1人ずつ参加させて県の方針等の説明がほしい。

パネリストの先生がすでに広域連合ありきという立場のように思いましたが、私達にとっては初めて聞くことばかりで、反対の立場の先生もおられたら対比しやすかったのではないかと思います。

又、滋賀県の方からも話を聞いてみたかったと思います。

あつという間の一日で有意義でした

これからも意識を持ってよりよい滋賀を目指せるようにしたいと思います

久しぶりに真剣にものを考え意見をいう機会に出会えて自分を高められたと喜んでいる。きっと多くの人たちが自分の住んでいる県をよくしたいと考えているはずよい滋賀県をともに創っていきましょう

関西広域連合ありきという形で資料内容が構成されていた。もう少し事前に対話会を開いていただきたい

討議は有効であった。有識者の回答は非常に参考になった。

今日は何を議論するのかはっきりしてなかったように思う。

100名近くの県民が参加した費用とこの後の効果がどうなるのか疑問？

とても楽しかった！！いい刺激になりました。県のこと、関西のことについて、地域のあり方について、もっと興味をもって知っていこう、と思いました！！将来のビジョンも知りたいです！

初めての経験で興味・関心をもって参加させていただきました。10時から夕方4時過ぎまでの日程で大変かと案じましたが、終えてみて時間的に物足りなさを感じております。

主旨や活かされ方を明示してほしい。何に役立つかわからないとモチベーションも低下する。県の考えが分からない。

一つ議題についても色んな考え方があることが分かり、楽しめました。また機会があれば参加したいです。

こういうテーマで真剣に多くの方と意見交換ができて有意義でした。

大テーマにしては時間が少ないように思いました。グループ対話もう少し柱をもって対話したほうが良かったと思います。

行政の関係者も参加すべきと思います。

自分の知りたい、言いたい、聞きたい欲望がわいてきた。県民の多くが、積極的にならないといけない。

とても良い企画です。しかし、①と②は順番を変えれば、①偏重でなくなり、また、①の討論にも熱が入ったのではないのでしょうか。

今回の対話型アンケートは大変良かった。広域連合と道州制については少し解った気がします。参加者の方々の県に対する思い入れの強いことを認識いたしました。2度3度と開催して欲しいです。